



苫小牧市議会議員
小山 征三

通信

『秋』号
2022年11月

小山せいそう事務所

苫小牧市ときわ町1丁目19-23

TEL0144(67)8255

後援会の皆様に感謝 2022年度『市政功労者表彰』を受賞



2022年11月1日、苫小牧市より『令和4年度苫小牧市 市政功労者表彰』を受賞致しました。

受賞の理由は、「市議会議員として市勢の発展に尽くされた功績をたたえるもの」とのことです。私の活動の原点は、後援会の皆様と意見交換しながら、地道に地域課題に取り組むことです。これまでスムーズに活動を続けてこられたのは、ひとえに、後援会長をはじめ、後援会の皆様方のご支持・ご支援の賜物でございます。

原点は防災

思い返せば、私が市議会議員に初当選したのは、2011年4月の統一地方選挙です。当時の行政は、災害に対する意識が低く、どんな提案や改善を求めても聞き入

られないことから消防の職を辞して「災害に強いまちづくり」を掲げ、2011年の1月1日に立起表明をしました。その2ヶ月後の3月11日に未曾有の災害となった「東日本大震災」が発生し、既に1年半が過ぎました。

東日本大震災は、国内最大級のマグニチュード9.0を観測し、東北地方の太平洋側を中心に高さ10メートル以上の大津波が各地を襲来。地震と津波の影響で東京電力福島第一原発事故が発生、今も約38,000人が避難生活を余儀なくされ、福島第一原発の周囲は人が住めない状況となっています。報道によると、東日本大震災の死者数は19,759人となり、依然として2,553人が行方不明となっています。福島第一原発事故の影響で放射能汚染は数十年単位で残り続ける可能性が高く、震災は、まだ終わっていないと言えます。

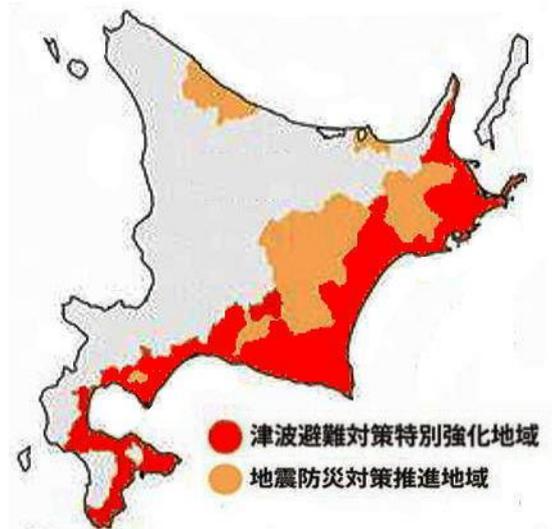
★★ 日本海溝・千島海溝沿い巨大地震 ★★ 津波浸水対策の「特別強化地域」に指定

東日本大震災の被災地を襲った“黒い津波”。その時の映像は、今もなお多くの人々の目に焼き付いています。

その後、北海道は2012年6月に「太平洋沿岸の津波浸水予測図」を公表し、本市も津波ハザードマップ、44町内会・30マップを作成しています。しかし、課題が多く避難施設まで遠い地区の住民は、どのように避難するのか、未だ明確になっておりません。そんな中、国は2020年4月に「日本海溝・千島海溝沿いの津波浸水想定」を公表しました。

本市では、昨年の調査結果等を踏まえ、津波ハザードマップ（原案）を改訂するため各町内会の意見を聴取していますが、本年9月30日に政府は、日本海溝・千島海溝沿いで想定される巨大地震に備え、防災・減災対策を推進する地域として8道県272市町村を指定しました。

本市も指定されました。今後は、避難施設に費用に対する国の補助率が2分の1から3分の2に引き上げられたことから避難困難地域の避難路や避難場所を確保していかなければなりません。



私は、消防で培った「使命感」を持って、今後も市民の生命と財産を守るため取り組んでまいります。

第24回市議会定例会で「市政に臨む基本方針」

駅前再整備・巨大地震対策など課題山積



第24回市議会定例会は9月2日(金)から15日(木)まで開かれ、報告5件、陳情1件、議案24件、要望意見書3件、決議1件、その他の議事2件の審議が行われました。

6月の市長選後初の定例会で岩倉市長は、市政に臨む基本方針を説明しました。これに対して、6会派6人の議員による代表質問が行われ、①駅前(旧エガオ含む)再整備の方向性②日本海溝・千島海溝沿い地震の対策③新型コロナの対策④家庭ごみの戸別収集の導入⑤温室効果ガス実質排出量実質ゼロに向けた取り組みなどについて議論が行われました。

今定例会で提出された「憲法改正の発議に際し、国民が検討するための十分な時間を確保するよう国に求める要望意見書」は、以下のとおり賛成多数で可決されました。

| | 新 緑 | 公明党 | 民主クラブ | 改革フォーラム | 共産党 | 会派市民 | 無所属 |
|---------|-----|-----|-------|---------|-----|------|-----|
| 要望意見書採択 | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

家庭ごみの戸別収集 2016年7月～未だに14地区のまま・・・

家庭ごみの戸別収集のモデル事業については、2016年7月から一部の区域で戸別収集を試験的に実施し、自宅敷地内で出すことによるごみ出しの負担軽減、出し方や減量への意識向上などの効果を検証してきましたが、モデル事業実施から既に6年が過ぎました。これまでに、市内14地区(うぐいす団地、大町、木場町、啓北町、幸町、新開町1丁目、新富町、青雲町、錦町、船見町、本町、本幸町、宮の森町、勇払)でモデル事業を実施していますが、本来であれば検証を終え、方向性を出さなければならない時期は過ぎています。戸別収集の対象となっていない町内では不満が出ています。

全国の自治体では、一般廃棄物の排出抑制と戸別収集の実施による排出者責任の明確化等で更なる廃棄物減量が得られるものとして導入してきました。

ステーション収集は、戸別収集に比べ、収集経路が簡略化され、収集時間の短縮を図れ、効率的に収集ができる反面、廃棄物の排出者が特定されないため、不適正な排出など排出者責任が薄れることや排出マナーを完全に徹底できないことです。一方、戸別収集は、市民が廃棄物を排出しやすく、**高齢者等の排出負担が軽減**されるが、作業量が多く、収集時間がかかるため、収集費用が増大することなどがあります。今後、市内全域に戸別収集を拡大するのか。また全域を実施できない場合は、優先順位としては高齢者が多い地区になるのかなど岩倉市長は、来年3月まで結論付けるとしました。



《後期高齢者医療制度の現状》

| 項 目 | 単位 | 2年度 | 3年度 | 増減 |
|---------------|----|---------|---------|------|
| 総人口 | 人 | 170,370 | 169,756 | △614 |
| 高齢者人口(65歳以上) | 人 | 49,933 | 50,496 | 563 |
| 高齢化率 | % | 29.3 | 29.7 | 0.4 |
| 後期高齢者被保険者数 | 人 | 23,086 | 23,767 | 681 |
| 1人当たりの保険料調定額 | 円 | 70,635 | 71,023 | 388 |
| 1人当たりの保険料収入済額 | 円 | 70,404 | 70,720 | 316 |

2021年度末における苫小牧市の総人口は、169,756人と昨年度より614人減少していますが、道内では、札幌市、旭川市、函館市に次ぐ4位の人口規模となっています。

65歳以上の高齢者は50,496人(29.7%)で、75歳以上の「**後期高齢者医療制度**」の被保険者数は、23,767人、前年度より681人の増加し、1人当たりの保険料調定額および収入済額は、いずれも前年度より増加し、高齢化の進展に比例して増加しています。

《熱血現場主義》 小さなことでも身近な問題を地域から発信します!

小山征三 検索

